



岐阜大学機関リポジトリ

Gifu University Institutional Repository

超音波破碎と薬物学的C E A抗原遊出法を併用した 播種性転移診断増強法の開発

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2008-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国枝, 克行 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12099/398

はしがき

この報告書は平成9年度から3年間にわたる超音波細胞破碎と phosphatidylinositol phospholipase C (PLC) による薬物学的 CEA 遊出法を併用した腹膜播種性転移早期診断法に関する研究成果をまとめた報告書である。

胃癌腹膜播種性転移を伴う胃癌症例の予後は極めて不良であるため、治療成績の向上には、可及的早期に腹膜播種を診断して早期治療を行うことが重要と考えられる。申請者らは先に、PLC の性質を応用した腹膜転移早期診断法(PLC法)を開発したが、今回、超音波細胞破碎を併用した場合(USP法)の感度増強効果と臨床応用の可能性を検討した。基礎的検討では CEA 産生胃癌細胞株を用いて CEA の遊出効果が CEA の細胞内局在様式により異なることを示した。また臨床的検討においても、USP法が従来 of 細胞診や PLC法に比較して、感度が高く疑陽性の少ない有用な方法であることを明らかにした。

研究組織 研究代表者：国枝克行（岐阜大学医学部 助手）

（研究協力者：辻 恭嗣 岐阜大学医学部附属病院 医員）

（研究協力者：早川雅弘 岐阜大学医学部附属病院 医員）

研究経費	平成 9年度	1, 000 千円
	平成10年度	800 千円
	平成11年度	1, 000 千円
	計	2, 800 千円